



## 広報室 初年度の活動報告と課題

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2013-12-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 北野, 健一, 土井, 智晴, 井上, 千鶴子, 田代, 徹也, 上野, 忠義, 萬玉, 富晴 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.24729/00007665">https://doi.org/10.24729/00007665</a>

# 広報室 初年度の活動報告と課題

北野健一\*, 土井智晴\*\*, 井上千鶴子\*, 田代徹也\*\*\*, 上野忠義\*\*\*\*, 萬玉富晴\*\*\*\*

## Activity Report of Public Relations in the first year.

Ken'ichi KITANO\*, Tomoharu DOI\*\*, Chizuko INOUE\*, Tetsuya TASHIRO\*\*\*, Tadayoshi UENO\*\*\*\*, Tomiharu MANGYOKU\*\*\*\*

### 要 旨

大阪府立工業高等専門学校では、広報活動の重要度が上がっていることに鑑み、平成15年度より広報室を立ち上げた。本稿では、広報室初年度における1年間の活動を総括し、次年度以降への課題をまとめた。

キーワード：広報、ホームページ、公開講座、体験入学

#### 1. はじめに

従来、大阪府立工業高等専門学校（以下、本校と略す）の広報活動は、両主事室、図書館、共同教育研究センター一両部門、事務局と各部署が分担して担ってきた。近年広報活動の重要度が高まっていることに鑑み、平成7年の機構改革時に広報委員会が設置され、平成15年度からは広報委員会に代わって広報室が設置された。広報委員会と広報室の差異を表1に示す。

規程によると、広報委員会は各種委員会であるから、各科・局・学校技師グループ・事務職員より1名ずつ委員が選出され、委員長は委員の互選であった。

広報室は、室長は事務局次長があたり、委員は室長の意見を聞いたうえで校長の指名をもって選ばれる。室員は教員4名、職員1名であるので、すべての学科から委員が選ばれるわけではない。室員は、現在副主事や学級

担任等、主要な校務分掌との兼務は不可となっている。

広報室の設置をもって、広報委員会は廃止されたため、広報委員会の業務はすべて広報室が引き継ぐことになった。さらに、規程によると、広報室は学内ネットワークの管理、公開講座、体験入学、学校見学会、中学校訪問等かなりの業務を担うことになった。

#### 2. 広報室活動全般について

平成14年12月に、初年度の室員が選出されてから、3月までに事前会議を5回行った。その主な議題を表2に記す。

表2 広報室事前会議の日程と議題

回	会議日	議 題
1	2003. 1. 16	・ 広報室の業務範囲について
2	2003. 2. 7	・ 広報室の業務範囲について
3	2003. 2. 18	・ 広報委員会との引継ぎについて ・ 広報室サーバについて ・ 調査出張について ・ メールマガジンについて ・ 資料の保管場所について
4	2003. 3. 3	・ 広報室サーバについて ・ 図書館における収集資料について
5	2003. 3. 13	・ 広報委員会との引継ぎ（委員長出席） ・ ホームページについて

表1 広報委員会と広報室の違い

	広報委員会	広報室
設置年度	平成7年	平成15年
構成員の数	8名	6名
構成員の選出方法	各科・局・職域ごとに選出	校長の指名
委員長（室長）の選出方法	委員の互選	事務局次長があたる

2004年4月14日 受理

\* 一般教養科(Department of Liberal Arts)

\*\* システム制御工学科(Department of Systems and Control Engineering)

\*\*\* 機械工学科(Department of Mechanical Engineering)

\*\*\*\* 事務局(Administration Bureau)

事前会議では、広報室の業務範囲について、議論をし、おおまかな範囲を決めた後、広報委員会から業務をスムーズに移行できるよう、委員長と連絡をとりながら、話

し合いと作業を行った。特にホームページの管理運営については、連続性が求められるので、4月からスムーズに管理できるようサーバの構築を急いだ。

表3に4月以降開催された広報室会議の議題を示す。

表3 広報室会議の日程と議題

回	会議日	議 題
1	2003. 4. 3	・後援名義について ・教務主事室からの依頼事項について ・業務分担について ・調査出張報告について ・備品要求について
2	2003. 4. 15	・学校見学会について ・高専ニュースについて ・担当年間計画表について
3	2003. 5. 6	・産官学交流会について ・体験入学について ・教職員会議への報告事項について ・ホームページの肖像権について
4	2003. 5. 22	・府立高専だよりについて ・予算要求について ・中学校訪問について ・体験入学について ・公開講座について ・新サーバの導入について ・各種委員会の議事録について
5	2003. 5. 27	・1年生アンケートについて ・イベント情報について ・産官学交流会について ・高専ニュースについて
6	2003. 6. 4	・自己点検評価委員会からの依頼について ・府立高専だより第11号(通算72号)の編集について ・体験入学について
7	2003. 6. 19	・イベント情報について ・体験入学のリーフレットについて ・1年生アンケートの結果報告
8	2003. 7. 18	・体験入学について ・教育委員会主催の進路説明会について ・中学校訪問予備調査結果について ・産官学交流会について ・公開講座の保険料について ・塾主催の入試説明会について
9	2003. 8. 19	・体験入学について ・産官学交流会について ・次年度の高専パンフレットについて

10	2003. 9. 11	・体験入学の反省 ・高専祭PRコーナーについて ・中学校訪問について
11	2003. 9. 25	・府立高専だより第11号の校正について
12	2003. 10. 23	・臨時学校見学会について ・高専祭PRコーナーとビデオ撮影について ・府立高専だより第11号の反省 ・次年度の高専パンフレットについて ・次年度広報室員について
13	2003. 11. 13	・高専祭PRコーナーの反省 ・府立高専だより第12号(通算73号)の編集について ・臨時学校見学会について ・次年度広報室員について
14	2003. 12. 4	・臨時学校見学会について ・府立高専だより第12号の編集について
15	2004. 1. 8	・府立高専だより第12号の編集について
16	2004. 1. 15	・学校見学会のまとめ ・自己点検評価委員会への報告書について
17	2004. 1. 29	・調査出張について ・教育委員会主催の進路説明会について
18	2004. 2. 19	・府立高専だより第12号の校正について

広報室会議は月に1～3回のペースで開催した。この会議以外でもメーリングリストを利用して頻繁に情報交換を行った。

### 3. 個々の活動について

#### 3.1 府立高専だより

本校から発行されている広報刊行物の一覧を表4に示す。広報室では、この中の「府立高専だより」、「学校案内」、「府立高専ガイド」、「体験入学リーフレット」を担当している。「府立高専だより」は、日本万国博覧会が大阪で開催された昭和45年7月に第1号が学生主事室の編集で発行された。第6号まではB3版を二つ折りした4ページのものであったが、昭和47年7月発行の第7号からB5版の12ページから30ページ程度の折り込み様のものになった。昭和53年7月発行の第25号からは年3回の発行が2回になり、平成7年3月発行の第57号から現在のA4版に変更になった。平成10年10月発行の第62号より、編集が学生主事室から、一層の広報の充実を目指し平成7年度より新設されていた広報委員会に移され、名称もそれを機に「学校だより」から「府立高専だより」に変更された。

表4 広報刊行物一覧

種 類	発 行 状 況	部 数
学校要覧	年1回 5月	100
学校案内	年1回 6月	2,000
府立高専ガイド	年1回 6月	5,000
体験入学リーフレット	年1回 6月	2,000
研究紀要	年1回 7月	500
図書館だより	年2回 7,2月	各1,500
府立高専だより	年2回 10,3月	各2,000
大阪府立工業高等専門学校入学案内	年1回 12月	3,000
大阪府立工業高等専門学校共同教育研究センター広報	年1回 3月	400

平成15年4月には広報委員会が広報室に改組され、本年3月で通算73号を数えるに至っている。毎号2,000部印刷し、本校学生、教職員、関係機関へ配布している。

学校だより第1号に、当時の伏崎校長が学校だよりの意義について、次のように述べておられる。

『学校だより』は広報—教職員、学生に学校運営、教育上必要な事柄を周知徹底させることが願いが、同時に公聴—学校側教職員、学生それぞれその分を守りながら、学校の抱えている問題点を考え、理解し、建設的意見を出し合う共通の場をも提供するところに本来の意義があると思う。』

「府立高専だより」—誰からも親しみのある、また、読みやすいものでなければならぬ。今後、主な読者である学生の興味や意見もたくさん取り入れ、さらにより一層の内容の充実を図ることが必要であろう。

### 3.2 学校紹介パンフレット

いうまでもなく、広報の命は入り口と出口のPRにある。その最前線を担っているのが、学校を紹介するパンフレットであり、中学生向けとして「府立高専ガイド」、企業向けとして「学校案内」がそれぞれ発行されている。

「学校案内」は従来学生主事室が編集を担当していたが、平成15年度より広報室で編集することになった。平成6年度よりA4版になり、平成12年度より現在のデザイン(OPCT PROFILE)になった。

「府立高専ガイド」は従来教務主事室が編集を担当していたが、これも平成15年度より広報室で編集することになった。平成9年度までは「中学生のみなさんへ」のサブタイトルでB5版であったが、平成10年度よりA4版のフルカラーになり、平成12年度より現在のデザイン(TAPPLE)になった。本校は平成17年度より1学科6コース制になる予定であり、現在基本的なデザイ

ンを始め、中身を抜本的に一新することを検討中である。

また同時に専攻科も設置されることから、専攻科宣伝用パンフレットの作成にも取りかかる必要がある。

### 3.3 学校見学会

学校見学会は、従来教務主事室で行っていた業務で、毎月第一水曜に行う定期見学会と、見学希望者の要望に応じて行う見学(以下「希望見学」と称す)がある。このうち定期見学会を、平成15年度は広報室で担当した。

内容は、それまでの形式を踏襲し、学校の概要説明と校内見学とした。配布資料は、府立高専ガイド「TAPPLE」の他、「府立高専だより」掲載の進路状況、体験入学案内、高専祭案内、公開講座案内、入試要項などを時宜に応じて配布した。実施状況と参加者数は表5、表6の通りである。参加者は年々増えており、今年度の定期見学参加者計182名という数字は、昨年度の定期・希望見学を合わせた総計に匹敵する。12月・1月には中学2年生の参加もあった。本校への関心の高まりと、本校が見学会を行っていることが周知されてきたことの現れと考える。

今年度は、従来行っていなかった高専祭直前の11月と、平日に参加しにくい希望者もあることを考慮し、12月7日(日)に臨時の見学会を行った。例年、中学校での進路指導が具体化される10月以降、参加者が格段に増加するので、その要望に応える意味もあった。高専祭直前の第6回では、実際に学生の活動が目玉の当たりででき、好評であった。12月の臨時見学会では、建設工学科山本教授、工業化学科中崎教授、機械工学科君家講師の協力を得て、学校休業日のスタッフ不足を補うことができた。参加者は、パンフレットからでは見えない学校の雰囲気などを知りたいと望んでいるので、複数の学生や教員の生の声を聞くと満足度が高いようである。次年度も引き続き実施したいと考えている。

今後の課題として2点挙げる。前項でも述べたが、参加者はパンフレットなどでは知り得ないことを望んで参加している。参加者のアンケートでは、授業風景やクラブ活動の様子を見学したいという要望が多い。中学生が日常の学校生活に支障なく参加できる日時というのは本校でも授業を行っていない時間帯であり、授業風景を見せるというのは困難である。今のところ学生の活動はクラブや卒業研究の様子として見せることで、対応している。学生はいずれも快く質問に応じ、活動状況や研究の進展について答えてくれている。教職員による日頃のご指導あつてのことと心より感謝申し上げます。

見学コースは今までは一定せず、図書館・共同教育研究センターなどを見学した後は、その日の状況と担当者の判断で、活動しているクラブや工場・実験室などを訪

ねる傾向にあった。これを、その時々イベントには柔軟に応じながらも、一定のレギュラーコースを確立し、校内に周知するべきではないかと考察中である。コースが決まっていれば、コース周辺で活動しておられる教職員の協力も得やすくなるを考える。共同教育研究センターでは、機器類の説明パネルや標本があり大変助けられた。

これらの課題を克服するためにも、今後とも一般教職員の理解と協力を仰ぐことが必要不可欠である。定期見学会の日程を周知し、校内見学や配付資料で中学生にアピールできるものがあれば広報室に一報あるよう依頼する、さらに中学校訪問やその他で中学生や中学校関係者に接触する教員には、学校見学や体験入学などの周知協力を依頼し資料提供の便宜を図るなど、スムーズな協力を得られる態勢作りに努めたい。

参加者は一様にグラウンドの大きさや機器類に驚くが、箱が学校なのではなく、学生と教職員が活動する“生き物”が学校であることを忘れぬように、今後とも活動していきたい。

表5 平成15年度学校見学会(定期分)実績一覧表

回	実施月日	参加者人数
第1回	5月7日(水)	8名
第2回	6月11日(水)	4名
第3回	7月2日(水)	7名
第4回	9月3日(水)	14名
第5回	10月1日(水)	8名
第6回	11月5日(水)	31名
第7回	12月3日(水)	11名
臨時	12月7日(日)	66名
第8回	1月7日(水)	33名
	計	182名

注:参加者人数には中学生だけでなく、付き添いの保護者等も含まれている。

表6 定期・希望見学を合わせた総参加者人数の推移

年度	参加者人数
平成12年度	89名
平成13年度	102名
平成14年度	181名
平成15年度	223名

### 3.4 体験入学

従来体験入学は教務主事室と学生係で実施してきたが、平成15年度より広報室もその一翼を担うこととなった。教務主事室で行っている業務のうち、①参加者募集リー

フレットの作成(及び本校ホームページにおける募集ページの作成) ②Web申込み受付 ③当日の付添者に対する入学相談コーナーと学内見学の手配を今年度は広報室で行った。

昨年度に比べ、特に目新しいことは行っていないが、教務主事室との業務の分担がわかりにくく、多少現場に混乱を来した面があった。次年度注意すべき点である。

また、付添者の実習見学のコースを設定するに当たり、なるべく活発に活動している場面を合理的なコースで巡回できるよう、各実習担当者に細かく実習計画をお尋ねした。付添者のメニューは、前半がガイダンスで後半が見学となっているが、全部見学したい、子どもといっしょに実習に参加したいという付添者もあるほど、実習への関心は高い。

何より、次年度は平成17年度入学希望者への体験入学となるため、新学科を念頭に置いた体験入学となる。実施形態や担当者など何もかもが検討中だが、今までとはガラリと違った体験入学になることは間違いない。しかしすでに他高専では、全学科の内容を体験できるような体験入学を実施しているところもある。また、見せるべき高専の根本は変わらないはずである。毎年参加者の満足度は高く、出願者数の動向にも影響を与えている。これからも魅力的な体験入学を構築していきたい。

### 3.5 高専祭PRコーナー

広報室の設置に伴って前身の広報委員会が廃止された。したがって、高専祭(毎年11月第2週に開催)で広報委員会が主導的に行ってきた学校・学科紹介コーナー(以下PRコーナーと略す)を今年は広報室で準備することになった。高専祭でのPRコーナーは、近年専門5学科の学科紹介コーナーと教務主事室・学生主事室による学校紹介コーナーを設けている。学科紹介コーナーについては各専門学科が自学科を紹介するパネルや展示物等を、学校紹介コーナーは両主事室が学校制度や学校行事などを紹介するパネル等を掲示している。広報室はこれらPRコーナーの会場設営のための前準備(部屋割りや学友会への物品貸出依頼など)を行った。実際の設営には、各科のPRコーナー担当者や両主事室および事務職員にご協力を頂いた。また、学校紹介コーナーには入学相談コーナーを設置し、教務主事室および一般教養科と広報室で分担して、受検を予定している中学生などの相談に応じた。

平成15年度は従来の5学科対応での運営であったが、今後は新生高専の学校制度や1学科6コース制の効果的なPRの場として発展・活用してゆく必要があると考えている。

### 3.6 中学校訪問

中学校訪問が、いつから実施されていたか正確な記録は残っていないが、教職員会議・教員会議等の資料をさかのぼって調べていくと、一番古いところで平成7年7月12日の第2回教官会議において「教務主事室報告No.4」の中に、「体験入学のPRを兼ねて寝屋川・吹田地区の中学校訪問を行っている。」という記述がある。その後、平成10年までは、校長・両主事・学科主任で訪問を行っていたが、平成11年度より一般教養科教授が中心となって行うようになり、平成14年度より原則全教員が分担して行うこととなった。中学校訪問は、昨年度まで教務主事室管轄で実施されていたが、平成15年度より広報室の設置に伴い、教務主事室と広報室が共同で実施するようになった。今年度は基本的に昨年度と同様の方針（第9学区を除く府内全域を原則全教員で訪問する）で実施した。

訪問中学校数は、275校であり、昨年度と比較すると6校増加した。訪問教員数は、79名であり、昨年度と比較すると10名減少した。

中学校訪問の効果を検証するため、今年度アンケート調査を実施した。アンケートは中学校用と、本校教員用の2種類作成し、中学校用アンケート用紙の配布は、本校の教員が訪問した際に手渡しで行った。回収は、添付の封筒により郵便で行った。氏名や中学校名の記入はお願いしていない。147校から回答があり、回答率は53%であった。

本校教員用アンケートは、中学校訪問の資料に同封する形で配布し、回収は教務主事室内に回収箱を設置する形で行った。このアンケートは報告書を兼ねているため、記名式で行った。回答率は88%であった。

なお、これらのアンケートは本校の自己点検評価の一環として行われたので、結果は後日自己点検・評価委員会より公表される予定である。

### 3.7 公開講座

本校が求められている役割の一つに「産業や地域への貢献」がある。公開講座は、その役目のため必ず実施していかなければならないものであり、平成6年度から継続的に実施されている。本年度も地域交流、またPRのため、表7の通り数多くの公開講座が開催された。

地域住民に広く開催のお知らせを行うため、本校が所在する寝屋川市を始め、近隣の枚方、門真、守口、交野、四条畷市の広報誌に公開講座の案内を掲載していただくよう、その都度依頼した。

公開講座の参加者に入っていた保険については、いくつかの種類があり、掛け金も一定でないため、今後どのように取りまとめていくかが課題として残っている。

表7 平成15年度に開催した公開講座の一覧

講座名	開講月	開催場所	対象者	定員
マット運動 ～幫助方法～	7月	本校	小・中学生 及び幼児 向け体育 指導者	30名
子と親の楽しい かがく教室	8月	本校	小学生4～ 6年と保護 者のペア	50組
模型を作って “もの”の強度の 仕組みを調べよう	8月	本校	中学生	20名
ロボット教室	8月	寝屋川市 市民会館	小学校高 学年	30名
社会人のための 材料分析入門	8月	本校	一般社会 人	10名
親子体験教室 (エンジンの組み立 て、紙飛行機の製作、 ポケコン制御)	11月	本校	小学校4 年生から 中学生と その保護 者で一組	① 7 組、② 10組、 ③7組
冬休みロボット工作教室	12月	本校	小学校高学 年 30名 (先着順)	30名
手作りゴルフパターを 通した鉄鋼材料の鍛 造・熱処理工程体験	2月	本校	一般(学生 も可)	10名

### 3.8 ホームページ関係

#### 3.8.1 学外ホームページの管理・運営

広報室が設置されたことにより、本校のホームページは、広報室が管理することとなった。そのため、広報室員1名が専属のWeb担当者となった。Web担当者は学外ホームページコンテンツのチェックや更新依頼などを行っている。コンテンツの作成については、次の高専ニュースで説明するコンテンツ以外は今まで通り各科・各部署で作成されたものを校長決裁の後、学外サーバにコンテンツをアップロードしている（コンテンツのアップロードに関しては情報処理部門の協力を得ている）。

しかしながら、本校ホームページのコンテンツ容量増大でハードウェア的に危機的な状況であるため、本年度より試験運用という形で新学外サーバの設置・運用を始めた。この学外サーバは現在のところ2台あり、1台は産学交流推進室が外部機関との共同作業や情報発信をサポートするために設置を準備しているものであり、もう

1台は広報室が本校ホームページの容量増設と機能拡大のために設置準備をしているものである。今後、これら新学外サーバを管理・運営して、専攻科ホームページや新生高専のアピールに活用してゆく予定である。

### 3.8.2 本校ホームページにおける高専ニュース

前節で述べたように本校ホームページのコンテンツは校長決裁を受けた後学外に公開される。この決裁を得るためには通常1週間程度の時間を要する。したがって、素早く学内の情報を学外に発信することが難しかった。そこで、広報室ではニュース性が高いコンテンツについては広報室で作成し、本校ホームページにて情報発信を行えるようにした。また、本校教職員もニュース性の高い情報であれば、コンテンツ作成依頼を広報室に提出することでコンテンツ作成を広報室に依頼できる。これらニュース性の高いコンテンツについては、メールによる簡易確認を学校管理職より得ることで広報室として情報公開を行い、迅速な情報発信が可能となった。本年度公開されている高専ニュース21件(2月末日現在)の一覧を表8に示す。

表8 平成15年度に公開した高専ニュースのタイトル

日付	タイトル
2004.02.09	教員2名が表彰される!
2004.01.30	第40回短縮マラソン大会
2003.11.25	第1回北河内Eco-Energy Project 準備会
2003.11.07-09	第39回高専祭
2003.10.30	新聞も注目! 府立高専の産学連携
2003.10.19	ロボットコンテスト2003 近畿地区大会
2003.10.18	発明くふう展 発明協会大阪支部長賞受賞!
2003.10.12	プログラミングコンテスト競技部門優勝!
2003.10.01	校長先生、英語授業に特別参加
2003.08.27	第3回大阪府立高専産官学交流会
2003.08.21-22	平成15年度体験入学
2003.06.11	平成15年度文化行事
2003.05.28	高専ロボコン校内審査会
2003.05.21	救急救命講習会
2003.05.02	校外学習(2年生)
2003.05.02	校外学習(3年生)
2003.05.01-02	宿泊オリエンテーション
2003.04.08	第41回入学式
2003.04.08	平成15年度始業式
2003.03.20	第36回卒業証書授与式
2003.03.17	平成15年度入学生説明会

### 3.8.3 広報室学内サーバ

広報室ではスタッフ間で情報共有をするために広報室ドメインサーバ(以下、広報室学内サーバ)を設置した。このサーバによりスタッフ間の連絡用メーリングリスト(以下MLと略す)や体験入学受付用MLなどML開設が行えるようになった。また、学内行事などを撮影した写真などはHTML化することで、このサーバにアップロードして広報室内で自由に閲覧できるようにしている。今後は、広報室学内ホームページを作り、学内教職員との情報共有が可能なサーバとしたいと考えている。

### 3.9 学外掲示板の活用

本校には平成14年度に同窓会から寄贈された学外掲示板が校門横に設置されている。平成14年度までは本校同窓会事務局や学生主事室が管理していたが、広報室の設置に伴い学外掲示板の管理・運用が移管された。この学外掲示板には、広報室から本校での催し物や本校ホームページの高専ニュースをプリントアウトしたものを掲示している。また、本校教職員が学外掲示板にポスター等の掲示を希望する場合には、広報室に掲載希望のポスターを持参してもらい、広報室長が学校からの情報として発信してよいと許可したものを掲示するようにしている。この学外掲示板は、本校に來校する外来者や地域住民への情報発信の窓口として今後も積極利用を進めてゆきたい。

### 3.10 資料整理

本校では学校教育計画を始めとする資料が数多くあるが、各部署でばらばらに保管されているのが現状である。そこで広報室では今後の学校運営に役立てるため、教職員会議をはじめとする会議および委員会における議事録の収集を行っている。

今後は、文書だけでなく、各種行事の写真やVTRの収集、保管、貸出しも行っていきたいと考えている。

### 3.11 学習塾主催の学校説明会

従来、学習塾が主催する学校説明会には私立の学校だけが招かれていた。しかしながら、近年の少子化に伴い公立学校も私学と同様に学習塾が主催する学校説明会に同席するようになった。本校もその流れで学習塾が主催する学校説明会に出席させていただくようになった。学習塾は大抵なんらかの塾連盟に加盟しており、その連盟主催の学校説明会が10~11月頃に開催される。この時期は受験生が最終的に志望校を決定する非常に大切な時期である。各塾はその時期に受験生がラストスパートする契機とするため開催しているようである。表9に広報室と教務主事室で対応した学習塾主催の学校説明会一

覧を示す。

表9 本校が参加した学習塾主催の学校説明会一覧

日付	主催団体	会場
2003. 9. 23	つかさ塾	つかさ塾本部校
2003. 10. 25	社団法人全国学習塾協会	アウィーナ大阪
2003. 11. 2	馬淵教室	枚方市民会館
2003. 11. 3	京大進研	啓光学園
2003. 11. 16	泉州私塾連合会	テクスピア大阪

学習塾主催の学校説明会に参加してわかることは、受験生や保護者は数字のデータ（偏差値）を欲して参加しているということである。また、塾連盟が開催した模擬試験結果を持参され具体的に相談されるケースも多いので、単なる学校説明だけでなく、偏差値などのデータに基づく相談に対応できるように広報室としても準備する必要があることがわかった。また、学校説明会後に塾長などと懇談する会をもつ説明会もあり、そのような場では、本校の抱える問題点などを外部から厳しく指摘されることもあった（留年生や退学者が多いこと）。このように、学習塾主催の学校説明会に参加することで本校のみでは得ることのできない多くの情報を得られることがわかった。また、私塾だけでなく今後は各市町村や教育委員会が主催する学校説明会にも参加してゆく予定である。

### 3.12 各市町村教育委員会に対する進路説明会出席打診

7月上旬に、府内の全44市町村教育委員会あてにアンケート用紙を発送した。このうち27市町村教育委員会から回答をいただいたが、74%は教育委員会主催で開催していないという回答であった（中学校校長会等が主催して行っているところもある）。開催しているという回答があったところも、今年度の要項がすでに決まった後で、本校の説明時間を組み入れることができないという回答が多かった。その中で唯一四条畷市が主催する進路説明会に参加することができた（教務主事室が対応。四条畷市の進路説明会には、過去にも参加実績がある）。

### 3.13 1年生対象のアンケート調査

平成15年度の1年生を対象に、本校を知った経緯や志望動機等を調べるためにアンケート調査を実施した。アンケートは5月下旬から6月上旬にかけて行い、学級担任に配布・回収等をお願いした。質問項目は、本校を知った経緯、本校受検を決めた時期、志願理由、体験入学への参加、学校見学会への参加、公開講座への参加、ホームページ閲覧の有無、教員の中学校訪問、本校 PR

の方法の9項目である。結果は、教職員会議で報告したので、ここでは省略する。

### 3.14 産官学交流会サポート

8月27日に寝屋川市民会館で行われた本校産学交流推進室主催の「第3回大阪府立高専産官学交流会」に学校 PR 活動をする場として広報室も協力を行った。過去2回の大阪府立高専産官学交流会は、本校と関係企業の交流の場として盛会に行われてきたが、本年度から寝屋川近辺の地域住民にも参加してもらえるイベントとすることで、さらなる本校の PR を目指した。

具体的には、会場内の一室で本校を説明するパネル設置とビデオ放映を行った。また、子ども達にも参加してもらえるよう、その部屋の中でロボット教室も併設した。図1にそのときの様子を示す。このように産官学のみでの交流ではなく、地域住民の方にも参加して頂くことで産官学市民が連携したイベントとなり、本校の存在と高専というある意味特殊な学校種への理解を得られる場として活用できたことは非常に有意義であったと思う。



図1 学校 PR コーナーとロボット体験コーナー

### 3.15 調査出張

広報室設置準備のため、すでに広報室のある高専を訪問し、広報活動に関する状況を伺うこととした。訪問先はまず、広報室のある久留米高専を選んだ。次に、広報室という名の組織はないが広報委員会のある、近隣の有明高専を訪問した。この2高専はそれぞれ図2に示すように位置し、最寄の駅からバスを利用しなければならないが、最寄の大牟田駅-久留米駅間は鉄道で約30分の距離であり、両校とも互いを非常に意識せざるを得ない位置関係にある。

出張は平成15年3月24日に行った。両校とも、専任のスタッフが常駐しており、活発な広報活動を行っていた。特に気づいた点を以下にまとめる。



### 1) 広報誌について

有明高専では年3回，久留米高専では毎月発行している。ただし，内容は保護者に対するトピックス的な内容が多い。久留米高専では直接保護者に郵送しているが，切手代のみで月9万円の費用がかかり，封筒に詰める作業はアルバイトを雇って対応している。

### 2) 中学校訪問について

有明高専では，9月から10月上旬にかけて，福岡，佐賀を訪問している。久留米高専との関係上，久留米市への訪問は避けている。資料は熊本，福岡，佐賀，長崎，大分の全中学校に送付している。

久留米高専では，福岡県内300校を直接訪問している。



図2 久留米・有明高専の所在地

### 3) ホームページについて

両校とも，各科，セクションの責任で管理されており，広報室は，その改善勧告を行うこととされている。

### 4) 駅掲示板的ポスター掲示について

久留米高専では，西鉄久留米駅改札口に掲示スペースを年間70万円で借り，ポスター掲示を行っている。

### 5) その他の活動について

有明高専では，福岡市において入試説明会を，また久留米高専では福岡，佐賀において学校説明会を行っている。

その他，様々な情報を頂き，広報室初年度の活動の参考とした。

## 4. 次年度以降の課題

### 4.1 広報関係資料の一元管理

現状は，行事あるいは学校関連の資料は，教務主事室，学生主事室，各学科及び事務局等ばらばらに保管されている。例えば新入生宿泊オリエンテーションの写真が欲しいときは教務主事室に行かなければ手に入らないし，産学交流関係の資料は産学交流推進室に行かなければな

らない。今後は，学校行事をはじめあらゆる広報関連資料を広報室で一元的に管理するシステムを段階的に構築し，学内外の要望に応えていく。

### 4.2 府立高専の知名度向上

平成16年度の入学志願者は，278名，1.39倍と過去最低となった。これは，少子化というだけでなく，高専の知名度そのものが低下してきているのも一因と考えられる。平成17年度からの一学科6コース制への移行・専攻科設置のPRも含め知名度を向上させるため，①斬新なポスターの制作と各中学校への送付 ②中学校訪問の強化と訪問時における宣伝物の工夫 ③高専説明会のPR強化と参加者へのアフターケアの充実 などをはかり入学志願者を増加させる。また，広く学内外から，知名度向上のためのアイデアを募っていく。

### 4.3 府立高専だよりの充実及び学内広報の強化

府立高専だよりは，年2回の発行だが発行間隔が長すぎることで白黒印刷なので読みづらい面もある。一部カラー印刷化もはかり，できるだけ写真を多用することにより，読みやすい編集を目指す。

学内広報については，身近な出来事から，研究発表，受賞記事などHPをつうじて迅速に流せる体制，学内用のニュース専門の掲示板を作るなど教職員，学生が親しみを持てる広報を行っていく。

## 5. おわりに

以上，広報室が初年度に行った業務について報告した。広報は，学校の生命線ともいえるものであり，今後ますます充実することが望まれているし，スタッフに寄せられる期待も大きいはずである。来年度は，新学科および専攻科の周知を行わなければならない勝負の年であるが，幸い来年度のメンバーも今年度と同じであるので，初年度以上の働きができるものと自負している。本稿が，広報室，また広報のあり方について一石を投じる役割になることができれば幸いである。

### 謝辞

初代広報室長を務められた北川輝雄前事務局次長，ならびに岡聖晃会計課管理係主事に厚く御礼申し上げます。

### 参考文献

大阪府立高専の現状と課題（平成12年度自己点検・評価報告書），大阪府立工業高等専門学校，2001。